

留 学 報 告 書

記入日:2018年1月28日

所属学部／研究科・学科／専攻	文学部文学科英米文学専攻
留学先国	アメリカ合衆国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: カリフォルニア州立大学フラトン校 現地言語: California State University, Fullerton
留学期間	2017年8月～2017年12月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	3年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2018年1月6日
明治大学卒業予定年	2019年3月
留 学 先 大 学 について	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:8月中旬～12月中旬 2学期: 3学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	
創立年	1957年

留学費用項目	現地通貨 (USドル)	円	備考
授業料	5622	652152円	
宿舍費	7541	874765円	シングルアパートメント、112meal plan (内約200ドルweb手数料)
食費		円	上記の宿舍費に含まれる
図書費	約300	約34800円	教科書等
学用品費		円	
教養娯楽費		円	
被服費	約400	約46400円	
医療費		円	
保険費	約1035	約120000円	形態:明治大学指定のものとフラトン指定の両方
渡航旅費	約1638	約190000円	成田-LAXの往復
雑費		円	
その他	約345	約40000円	ビザ申請
その他		円	
その他		円	
合計	約16881	約1922117円	

渡航関連

渡航経路: 成田～ロサンゼルス国際空港

渡航費用

チケットの種類 エコノミー

往路 _____

復路 _____

合計 約 19 万円(一緒に取った為、各価格は不明)

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

明大サポートで往復で取りました。(往復ともにシンガポール航空)
帰りの便は無料で変更可能だったので、予定よりも一週間早めて帰国しました。

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

キャンパス内の寮

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数)

3)住居を探した方法:

フロンから送られてくる案内メールやホームページから、ネット上で寮の申請を行いました。

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

最初に振り分けられた部屋のルームメイト 4 人全員日本人で、ハウジングオフィスに何度も足を運んだり、メールを送り続けて部屋を変えてもらいました。すぐに取り合ってもらえなくても、絶対に諦めずに主張し続けることが大事です。

現地情報

1)現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった

利用した:

2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

基本的には college park の留学生向けの事務室

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

在ロサンゼルス領事館へ在留届を出していたので、時々注意喚起メールが送られてきました。また、キャンパス内や近隣での不審者目撃情報などが1、2回大学からメールがきました。実際に犯罪に巻き込まれたことはありません。

4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

大学、寮内での Wi-Fi は安定していました。繋がりが極たまに悪くなるくらいでした。

携帯電話は到着後すぐに使えるよう、渡航前に日本からアメリカ用の SIM カードを用意して行きました。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか? (例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地の口座は開設せずに、日本から持って行ったクレジットカードとデビットカードを利用していました。

6)現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

常備薬、就職活動用の証明写真

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った、渡航前に留学先大学から指示があった、渡航後のオリエンテーションで支払いに関する案内があった等)

渡航前に日本の銀行から Wire transfer(電子送金)で支払いました。現地での支払いも可能です。

卒業後の進路について

1) 進路
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2) 進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など
リクナビ、マイナビ
3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
レジャー、旅行などを中心に考えているところです。
4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
SPI の問題集を日本から持参しましたが、現地での課題やテストに追われて、実際就職活動は二の次になってしまいました。
5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
12単位	<input checked="" type="checkbox"/> 8(まだ未確定)単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Images of Women in Literature (Jane Austen on Film)	文学から読み取る女性像 (ジェーンオースティンの映画)
科目設置学部・研究科	English
履修期間	秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	2(まだ未確定)単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Lana L. Dalley
授業内容	ジェーンオースティンの小説や映像作品を比較や分析
試験・課題など	課題の小説ごとにあらすじなどの小テスト、合計3つのレポート、テストはなし
感想を自由記入	日本であらかじめ何冊か読んでいたので、あらすじなどを把握しているものもありながら、予習として出される範囲がとてつもなく多く大変でした。小説と映像の違いの分析や、オースティン作品のヒロインや登場人物の比較などがとても興味深かったです。最終レポートのお題が「オースティン作品の映画をリメイクする企画書作り」だったので、今まで学んだことを取り入れ、クリエイティブなものを考えるのに苦労しました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Inside the Movies		映画の秘密	
科目設置学部・研究科	Cinema and Television Arts		
履修期間	秋学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	2(まだ未確定)単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に180分が1回		
担当教授	Mike Dillon		
授業内容	授業前半で映画鑑賞、後半はその映画製作に携わったゲストスピーカーを迎えて話を聞く		
試験・課題など	試験2回(選択問題)		
感想を自由記入	どの映画を観て、誰がゲストスピーカーとして来るのか知らされていないので、毎週一番楽しみな授業でした。後半のインタビューは喋るスピードが速かったり、専門的な話題になると、リスニングしながらメモをとるのが大変でした。毎回ボイスレコーダーで欠かさず録音していました。また試験は選択ですが、自分で拾いきれなかった箇所が多かったので、試験前に友達と協力して勉強しました。ハリウッドから近いからこそ受けることが出来る授業だと思います。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Trends and Movements (The Graphic Novel)		流行と動向(グラフィックノベル)	
科目設置学部・研究科	English		
履修期間	秋学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	2(未確定)単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に75分が2回		
担当教授	Erin Hollis		
授業内容	コミックやグラフィックノベルの分析		
試験・課題など	毎週課題を一冊読んで Journal を提出、合計3つの Project、テストはなし		
感想を自由記入	ほぼ毎週異なるコミックを読んで感想を必ず提出しなければいけなかったもので、最も大変だった授業だったと思います。しかし自分が知らなかった作品に触れることができたので課題が辛くても、あまり苦にはならなかったです。文学的な目線でグラフィックノベルを読む機会はなかなかないですし、私の持っていた”グラフィックノベル、コミックブック”の概念を覆された気がします。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to American Popular Culture	アメリカのポップカルチャーの歴史入門
科目設置学部・研究科	American Studies
履修期間	秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	2(未確定)単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Craig M. Loftin
授業内容	アメリカ1920年代辺りからのポップカルチャーの歴史
試験・課題など	試験2回(筆記とエッセイ)、レポート1つ
感想を自由記入	アメリカのポップカルチャーの歴史に焦点を当てて進む授業だったので、基礎的な時代背景は理解してる前提で進められ、私は現地学生よりも遥かに知識が薄い分、授業内容についていだけで精一杯でした。先生の声は聞き取りやすく、はっきりと分かりやすく喋ってくださり、またオフィスアワーに聞きに行った時も優しく教えてくださいました。



留学に関するタイムチャート

2016年 1月～3月	カナダに短期留学、語学勉強
4月～7月	IELTS 受験、情報収集、語学勉強
8月～9月	イギリスに短期留学、語学勉強
10月～12月	出願、選考
2017年 1月～3月	留学先の情報収集
4月～7月	入学許可、寮の手続き、ビザ取得など
8月～9月	出国、秋学期授業開始
10月～12月	中間期末テスト、秋学期授業終了
2018年 1月～3月	帰国、就職活動準備
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記

留学しようと決めた理由	<p>まず、自分の専攻である英米文学を日本語という他の言語を通さず、そのまま英語で学びたいと思い留学を決めました。なぜなら、日本の授業で英語の文学を読むにあたり、日本語に訳すことも多くありましたが、英語と日本語の間には微妙なニュアンスの違いがあると感じ、少しでも原文をそのまま読み、英語のまま文学を勉強したいと思ったからです。</p> <p>また、1, 2年次で短期の語学留学に行き、実際に英語圏の国で英語を勉強したのですが、生活などに慣れてきた頃に帰国だったため、長期での留学で短期間では分からない文化の違いを学びたいと思いました。</p>
留学のためにした準備, しておけば良かったと思う準備	<p>渡航前から英語に毎日触れるように心がけてはいましたが、語学力を全体的にもっと伸ばした状態でいけばさらに良かったと思っています。特に授業で自信を持って発言出来なかったので、スピーキングはやはり重要だと思います。</p> <p>事前に取りたい授業がある程度決まっていたので、課題の本などを何冊か読んでいきましたが、それだけでは足りなかったのもっと授業に対する準備を入念にすれば良かったと後悔しました。ゼミで使っていた英語論文の書き方や基本のプリントを持参したので、とても役に立ちました。提出物の回数も量も多いので、そもそものライティング力をもっと伸ばしていくべきだったと思いました。</p>
この留学先を選んだ理由	<p>英米文学の授業が時代やジャンルで細かく分かれており、専門的に自分が学びたいことを取り扱っている授業が多く開講されていたからです。</p> <p>また、特定の学部には属すわけではないので、学部関係なしに自分の好きな授業を色々な学部から選ぶことができます。</p> <p>そして、イギリス文学を卒業論文で研究したいと考えているので、アメリカでイギリスの文学を学ぶことは、各国の文化やアメリカ英語とイギリス英語の比較などの点から興味があったからです。</p>
大学・学生の雰囲気	<p>キャンパスは広く、とても開放的です。リスやウサギを見かけることもしばしばありました。南カリフォルニアは基本的に1年中暖かく、雨はほぼ降らないので、気候的にはとても過ごしやすかったです。</p> <p>当初現地の大学生は日本の大学生よりもガッツリ勉強しているイメージがあったのですが、周りをみているとそうでもない人もいます事に気がつきました。</p> <p>しかし、一つ確かに言えることは自分の意見をどんどん主張したい、発言したいという意欲がある学生が多いことです。日本と違って、講義形式の授業でも教授が学生に意見を聞く場面が多くあります。そのような場で、積極的に挙手し自分の意見を共有したい学生がたくさんいました。</p>
寮の雰囲気	<p>私の住んでいたシングルアパートメントは一人ひとりの部屋も分かれており、バスルームも4人に対して2つなので生活するのに支障はほぼありませんでした。部屋のカードキー(学生証)や鍵を部屋に忘れたまま出てきてしまい、入れなくなった場合、電話をすればすぐに開けにきてくれるますが、3回目から呼ぶたびに20ドル請求されます。寮のカフェテリアは週7か週5(月～金)の間に何度でも入ることができるMeal Planか、回数券のように80回か112回のもので選べます。毎日メニューが変わる食べ放題形式のカフェテリアです。</p>

交友関係	<p>自分の英語が拙いという理由もあり、友達を作るのはとても苦労しました。日本人のみの部屋だった為、ルームメイトと仲良くなるという一番に考えられる方法が当初はどうにもならなかったので、なるべく部屋に帰らないようにしました。日本に興味のある学生の方が仲良くなりやすいと思ったので、JCC(Japanese culture club)に積極的に参加していました。たまたま同じ授業を取っていた友達がいたので、テスト前やレポート提出時に、助けてもらいました。また、友達とは一緒にご飯を食べに行ったり、ディズニーランドに行ったりもしました。</p>
困ったこと、大変だったこと	<p>寮の部屋を変えることに本当に苦労しました。アメリカは日本のようにすぐに動いてくれる社会ではないので、主張することを諦めたらなかったことにされてしまうと思い、しつこいほどハウジングオフィス、カレッジパークに足を運び担当者と話をさせてくれるように頼んだり、メールを何度も送りました。</p> <p>授業面では、特に週2回ある授業では授業が進むスピードが速いです。予習も課題も量が多く、正直なかなか復習できる時間が取れませんでした。</p> <p>またアメリカは車社会なので、どこに行くにしても車が必要になってしまうのが辛かったです。友達の車に乗せてもらうか、Uberか、たまにバスを利用していました。Uberも本当にたまにですが、英語が分からないと思われ、乗車後に確認すると請求額が高くなっていたりしたことがありました。Uberに問い合わせたすぐに直してもらいましたが、やはり異なる言語の国で生活するのは大変でした。</p>
学習内容・勉強について	<p>私は自分の履修したい授業が4つ中3つも300番台(正規生がだいたい3年生で取る授業)だったのですが、どうしても取りたかったので大変であることを承知の上履修しました。私の場合は、日本での専攻に近いものを履修したので頑張ればどうにか出来る範疇でしたが、これが全く自分の日本での学部と関わりのない授業だったとしたら、300番台をたくさんとることはリスクーだと思いました。</p>
課題・試験について	<p>課題の量は日本よりも遥かに多かったです。レポートは書き終えた後にネイティブの友達に頼み、添削してもらっていました。そして、予習の範囲も多かったので、計画的に各授業にあてる勉強時間を決めて取り組んでいました。授業によっては予習の確認として抜き打ち小テストがあったものもありました。</p> <p>試験前は授業内で配られたスタディーガイドに沿って勉強しました。また、試験が近くなると図書館の開館時間が通常よりも長くなっていたので夜中までこもって勉強することもありました。</p>
大学外の活動について	<p>JCC(Japanese Culture Club)でCulture Chairという日本語学習者に日本語を教えるポジションにつき、半期だけでしたが幹部の一員として活動内容の企画、準備に関わることができました。毎週クラブに欠かさず参加し、企画のための幹部ミーティングにも出席していました。このクラブには、日本に興味のある学生がたくさんおり、授業などよりも友達が作りやすく、みんなとても仲良くしてくれました。また日本語を教えることで改めて日本語の難しさや、英語との表現の違いに気が付くことが出来ました。</p>

留学を志す人へ	<p>留学は楽しいことばかりではありませんが、日本で普通に大学に通っているだけでは経験できないこと、海外で生活してみても初めて気が付くことなどたくさんの発見がありました。授業は英語が出来ることが大前提で始まるようなものなので、日本で語学はしっかりと固めていった方が良いと思います。</p> <p>留学中の方へのアドバイスなのですが、私も何度も留学中に八方ふさがりになってしまったように感じることもありましたが、どうにかなると言い聞かせて諦めずにいてほしいです。限られた貴重な時間の中で一つや二つの悩みにずっと悩まされることはもったいないので、自分が置かれた場所で精一杯に楽しんで下さい。</p>
---------	---

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	授業	起床	授業	起床			
	自習	自習	自習	自習	起床	起床	起床
午後	自習	授業	自習	授業	自由時間	自由時間	自習
	自習	授業	課外活動	授業	自由時間	自由時間	自習
夕刻	授業	自由時間	課外活動	ミーティング	自由時間	自由時間	自習
夜	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝

